

岡山県感染症週報

2011 年 第 30 週（7 月 25 日～ 7 月 31 日）

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。**◆2011 年 第 30 週（7/25～7/31）の感染症発生動向（届出数）****■全数把握感染症の発生状況**

第 28 週 2 類感染症 結核 3 名（80 代 男 1 名・女 1 名、90 代 男 1 名）

第 29 週 2 類感染症 結核 1 名（20 代 男）

5 類感染症 梅毒 1 名（70 代 男）

第 30 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名（O26 10 代 男 2 名）

の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

○手足口病は、第 26 週をピークに減少傾向にあり、今週も大幅に患者数が減りました。

○ヘルパンギーナは、全県では先週よりわずかに減少しました。しかし岡山市ではひきつづき発生が多く、感染症発生レベル 3 が継続しています。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、今年 8 月 5 日までに 33 名の発生がありました。例年 8 月は 1 年のうち最も発生が多くなりますので、特に感染予防に努めて下さい。O 血清群別では O26 が 13 件 40%、O157 が 12 件 36% であり、O26 の発生が目立ちます。岡山県では**腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令**し、感染予防を呼びかけています。なお、これまでのところ県内では、溶血性尿毒症症候群（HUS）など、重症例や死亡例の報告はありません。

県内の発生状況・症状・感染予防などについては感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中！』](#)をご覧ください。

2. **手足口病**の定点あたり患者数は、今週も大幅に減少し（定点あたり 5.46 → 2.83 人）、第 26 週をピークに減少がつづいています。県内全体では大きな流行または発生が継続しつつあると考えられる感染症発生レベル 3 が継続していますが、患者数はピーク時の 1/4 まで減少し、流行は終息に向かっていると思われます。
3. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、全県でわずかに減少しました（定点あたり 3.83 → 3.65 人）。しかし、岡山市では発生が増加し（8.14 → 8.50 人）、県内報告数の 60% を占めており、感染症発生レベル 3 が継続しています。

手足口病、ヘルパンギーナの今週の動向については、『**今週の注目感染症**』をご覧ください。

4. **流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）**は増加し（定点あたり 1.46 人 → 1.70 人）、今年は発生の多い状態で推移しています。倉敷市では依然として他の地域より発生が多く、感染症発生レベル 2 の状態がつづいています。（定点あたり 3.18 人）。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ			RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		★
ヘルパンギーナ		★★★	流行性耳下腺炎		★★★
急性出血性結膜炎		★	流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		★★★
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

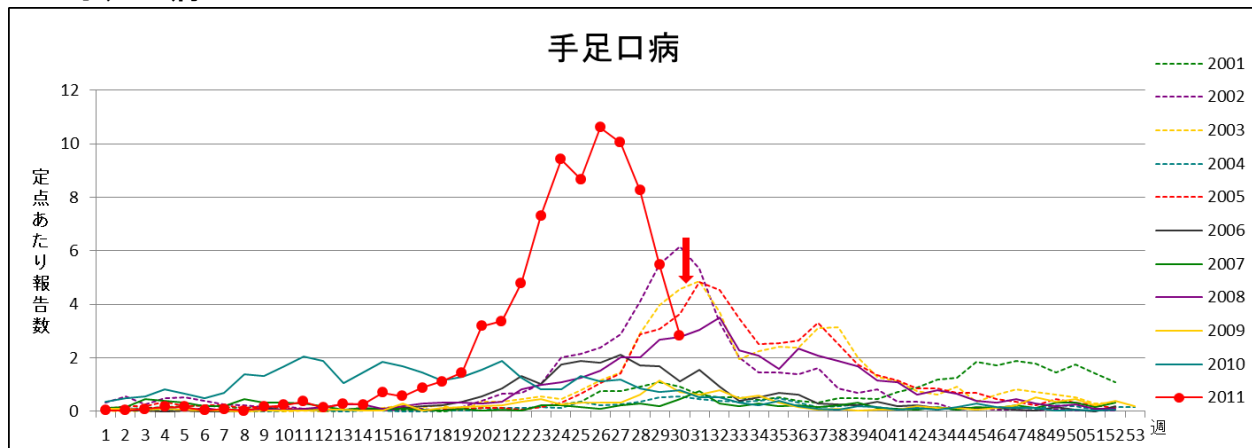
前週からの推移：  2 倍以上の減少  1.1～2 倍未満の減少  1.1 未満の増減
 1.1～2 倍未満の増加  2 倍以上の増加

流行状況： 空白 発生なし ★僅か ★★少し ★★★やや多い ★★★★多い ★★★★★非常に多い

※定点当たり患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 手足口病



手足口病の定点あたり患者数は、今週も大幅に減少し（295 → 153 人 定点あたり 5.46 → 2.83 人）、第26週をピークに減少がつづいています。真庭・美作地域に加え、備前・備北地域でも5月中旬から継続していた感染症発生レベル3は、レベル1になりました。しかし、岡山市（10.36 → 4.14 人）・倉敷市（4.27 → 4.09 人）では発生の多い状態がつづいており、全県では感染症発生レベル3が継続中です。

患者発生は多いものの、岡山県ではこれまでのところ、無菌性髄膜炎・脳炎などを合併した重症例の報告はありません。

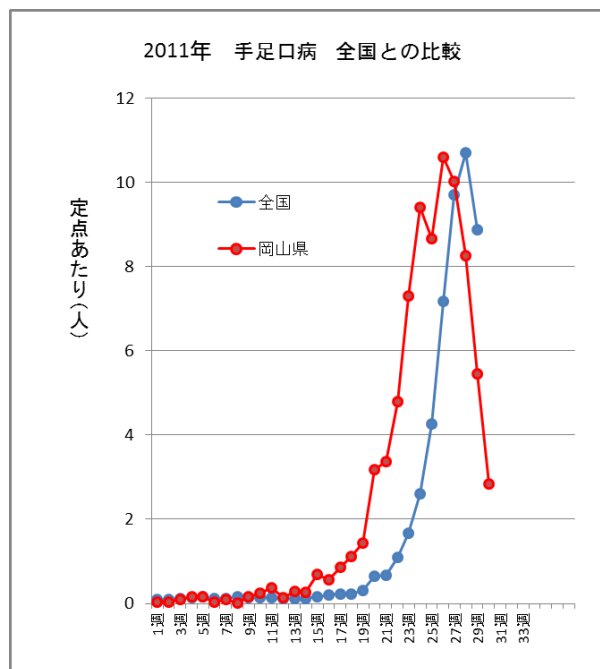
手足口病は、例年、5月中旬（第19週頃）に患者数が増加しはじめ、7月中旬～下旬（第29～30週）にピークを迎え、8月に入ると減少していくという経過をとります。本年岡山県で発生した手足口病は、全国平均よりも早い4月中旬（第15週）から患者数が増え始め、6月下旬（第26週）にピークを迎えました。

岡山県において手足口病患者の咽頭拭い液13検から、**コクサッキーウイルスA6型**が検出されました。全国的にも手足口病患者から主に、コクサッキーウイルスA6型が検出されています。

本年の手足口病は、高熱をとまなうことがあり、典型的な発生例と比べ発疹が大きく、大腿部・臀部に高頻度に認められ、手・足底には少ない症例が目立っています。

また、ヨーロッパでは最近、コクサッキーウイルスA6型の感染によって手足口病を発症し、治癒してから数週間経過した後に、爪甲が爪床から浮き上がって剥離・脱落する症例（爪甲脱落症）が、小児及び成人で多発していると報告されています。本年のわが国の手足口病発症例においても、爪甲脱落症が疑われる例が報告されてきており、今後、手足口病の流行が終息した後も本症例について留意する必要がある、という注意喚起がされています。

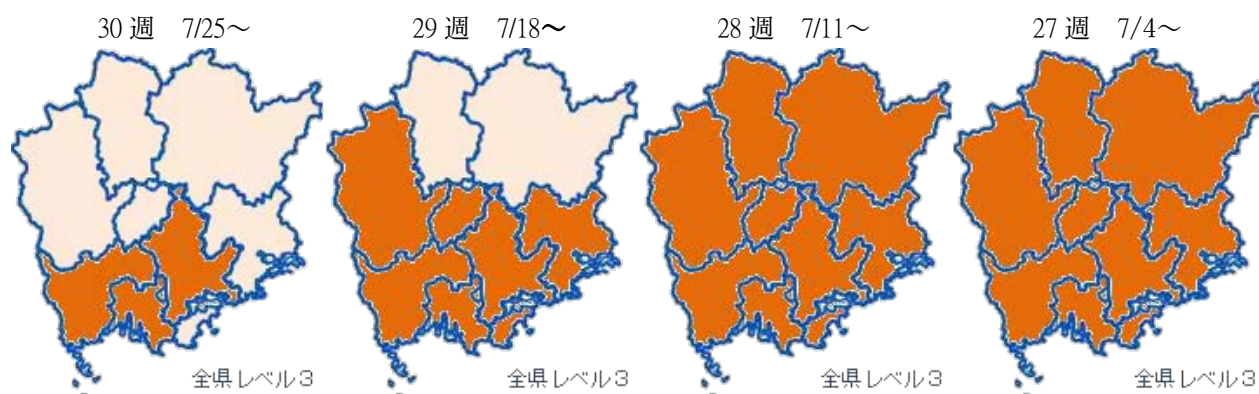
（[国立感染症研究所 感染症情報センター 週報第28週（全国版）](#)、[岡山市の医療機関からの報告](#)）



感染症マップ 手足口病 2011 年 30 週



レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
5	2		0 < 5 未満	0

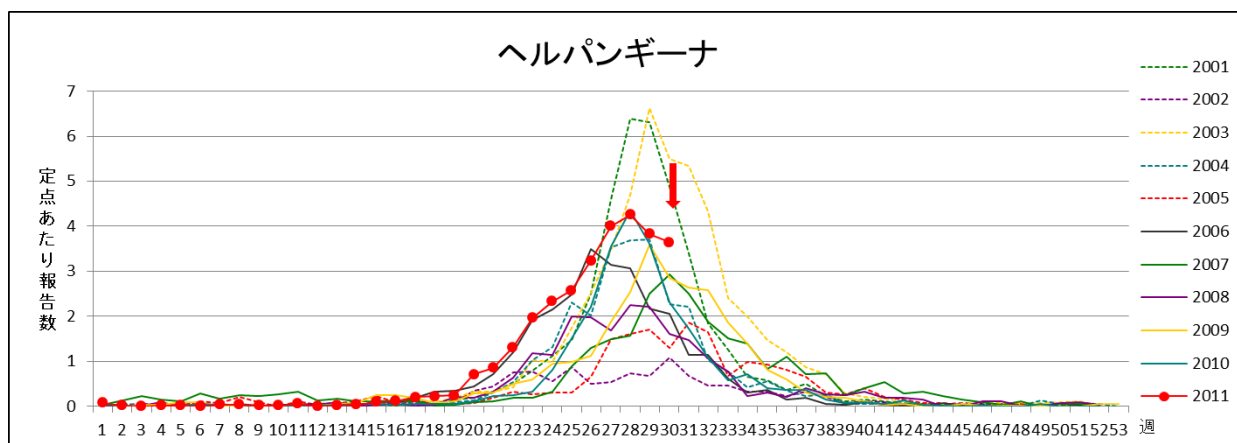


2. ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナの定点あたり患者報告数は、全県でわずかに減少しました（207 → 197 人 定点あたり 3.83 → 3.65 人）。しかし岡山市（8.50 人）・倉敷市（4.18 人）ではひきつづき発生が多く、岡山市では県内患者数の 60% を占めており、感染症発生レベル 3 が継続しています。

ヘルパンギーナは、夏に流行する幼児の急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。患者の年齢は 3 歳以下の幼児が中心で、全体の 70% を占めています。症状は、突然の発熱につづいて咽頭痛が出現し、口腔内に直径 1～2mm の小水疱が出現するのが特徴です。口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、食べ物や水分の摂取ができにくくなり脱水症につながる場合がありますので、8 月の暑い時期は特に注意が必要です。

岡山県ではヘルパンギーナ患者の咽頭拭い液から、**コクサッキーウイルス A6 型**が検出されました。



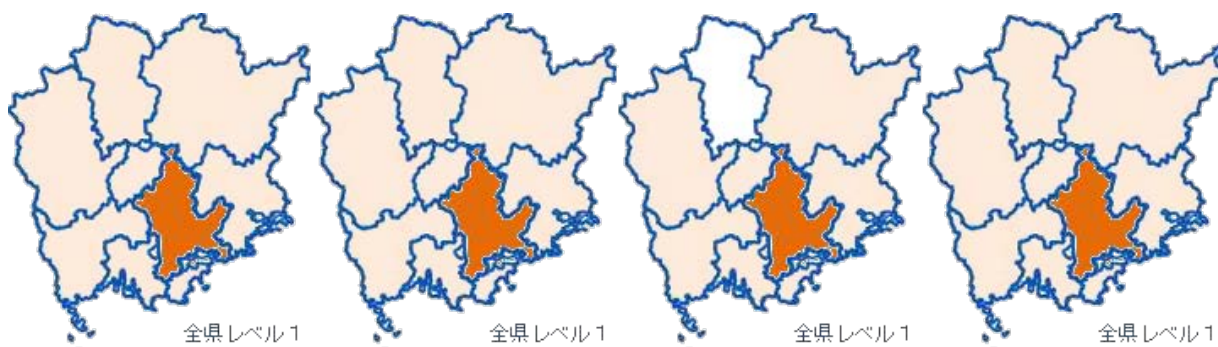
感染症マップ ヘルパンギーナ 2011 年 30 週

30 週 7/25～

29 週 7/18～

28 週 7/11～

27 週 7/4～



ヘルパンギーナ

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
6	2		0 < 6 未満	0

全国の手足口病、ヘルパンギーナ患者からの検出ウイルスについては、**国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報** をご覧ください。

今年のコクサッキーウイルスA6 型検出状況 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-tj.html>

2007-2011 の手足口病からの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf>

2007-2011 のヘルパンギーナからの検出ウイルス <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data38j.pdf>

- 手足口病・ヘルパンギーナは、発生が減りつつありますが、流行がつづいている地域もありますので、ひきつづき感染には注意してください。
- 症状がおさまっても、便の中には 2～4 週間ウイルスが排泄されることがあります。うがい・手洗いを励行し、おむつや便の取り扱いに注意して、感染予防と拡大防止に努めましょう。
- 体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意して早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数

において

数字

は感染症マップにおいて レベル3

数字

は感染症マップにおいて レベル2

を示しています

保健所別報告患者数 2011年 30週 (2011/07/25～2011/07/31)

2011年8月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	9	0.17	2	0.14	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	6	1.00
咽頭結膜熱	19	0.35	8	0.57	1	0.09	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	7	0.50	4	0.36	—	—	12	1.71	—	—	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	168	3.11	41	2.93	30	2.73	50	5.00	3	0.43	14	3.50	10	5.00	20	3.33
水痘	28	0.52	7	0.50	7	0.64	9	0.90	3	0.43	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	153	2.83	58	4.14	45	4.09	19	1.90	15	2.14	3	0.75	5	2.50	8	1.33
伝染性紅斑	11	0.20	4	0.29	1	0.09	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	3	0.50
突発性発疹	25	0.46	11	0.79	4	0.36	5	0.50	1	0.14	—	—	—	—	4	0.67
百日咳	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	197	3.65	119	8.50	46	4.18	14	1.40	7	1.00	2	0.50	2	1.00	7	1.17
流行性耳下腺炎	92	1.70	24	1.71	35	3.18	8	0.80	18	2.57	2	0.50	2	1.00	3	0.50
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	2	0.50	1	1.00	5	5.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 30週 (2011/07/25～2011/07/31)

2011年8月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	19	0.35	8	0.57	1	0.09	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	7	1.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	0.48	7	0.50	4	0.36	—	—	12	1.71	—	—	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	168	3.11	41	2.93	30	2.73	50	5.00	3	0.43	14	3.50	10	5.00	20	3.33
水痘	28	0.52	7	0.50	7	0.64	9	0.90	3	0.43	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	153	2.83	58	4.14	45	4.09	19	1.90	15	2.14	3	0.75	5	2.50	8	1.33
伝染性紅斑	11	0.20	4	0.29	1	0.09	—	—	2	0.29	1	0.25	—	—	3	0.50
百日咳	3	0.06	1	0.07	—	—	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	197	3.65	119	8.50	46	4.18	14	1.40	7	1.00	2	0.50	2	1.00	7	1.17
流行性耳下腺炎	92	1.70	24	1.71	35	3.18	8	0.80	18	2.57	2	0.50	2	1.00	3	0.50
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	10	0.83	2	0.40	2	0.50	1	1.00	5	5.00	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第30週 2011/07/25～2011/07/31)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	9	2	2	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	19	-	2	1	3	3	-	4	2	-	1	1	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26	-	-	2	2	2	2	7	3	2	-	1	2	1	2
感染性胃腸炎	168	2	15	29	11	14	12	11	8	13	6	8	14	7	18
水痘	28	1	1	3	7	7	4	-	3	2	-	-	-	-	-
手足口病	153	1	17	38	29	18	17	11	3	7	2	5	2	1	2
伝染性紅斑	11	-	1	1	2	1	4	1	-	-	-	1	-	-	-
突発性発疹	25	1	16	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	3	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	197	3	26	50	42	24	16	13	7	4	1	2	6	-	3
流行性耳下腺炎	92	-	3	5	14	9	11	18	8	4	3	6	10	1	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
流行性角結膜炎	10	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	1	2	2	1	-	1	-	-

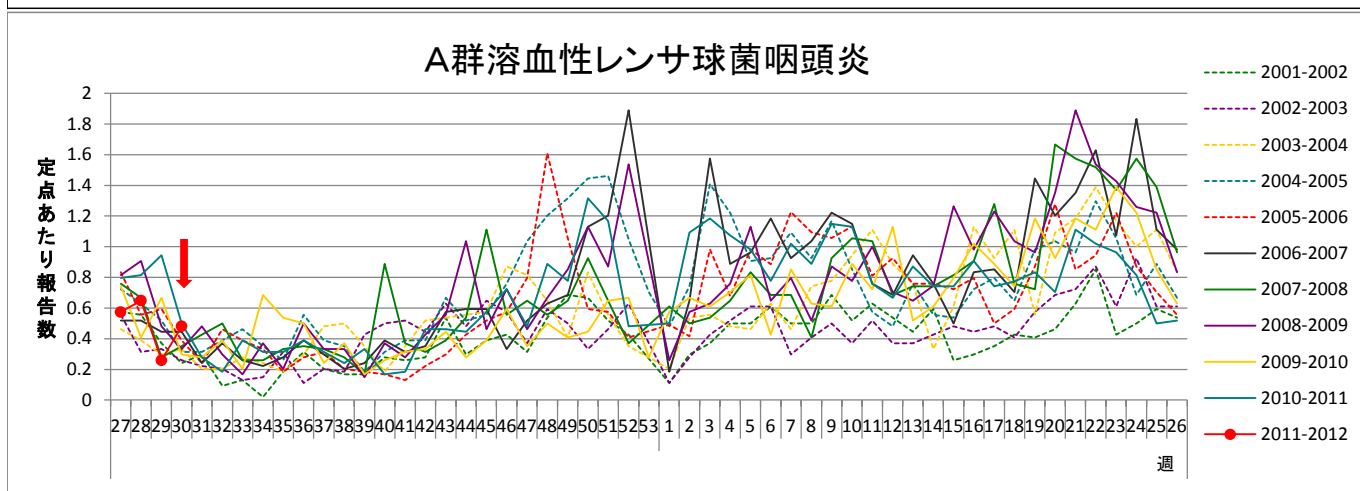
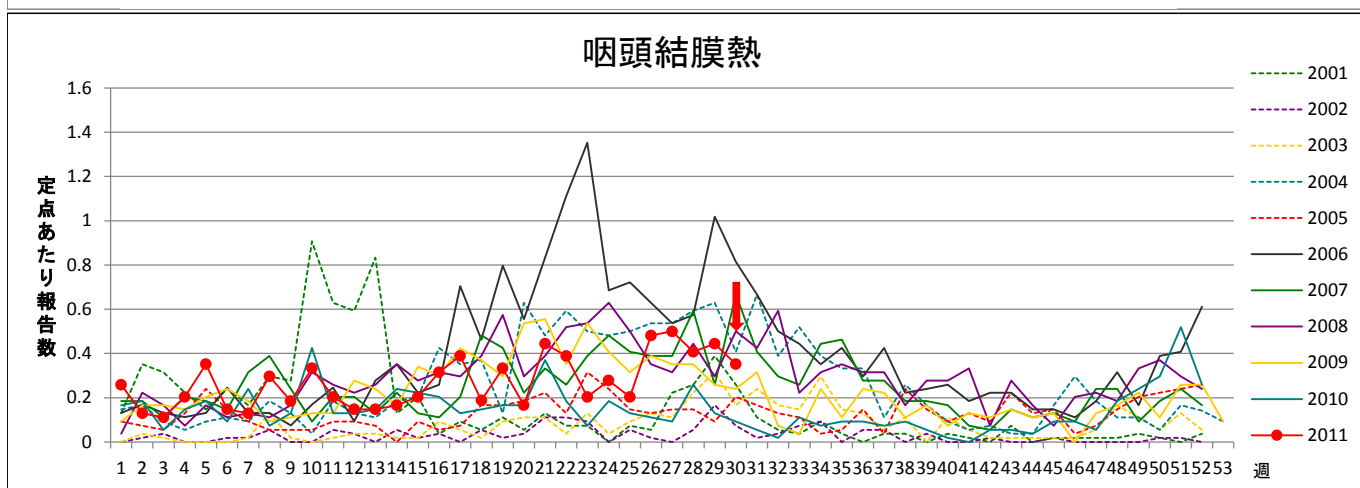
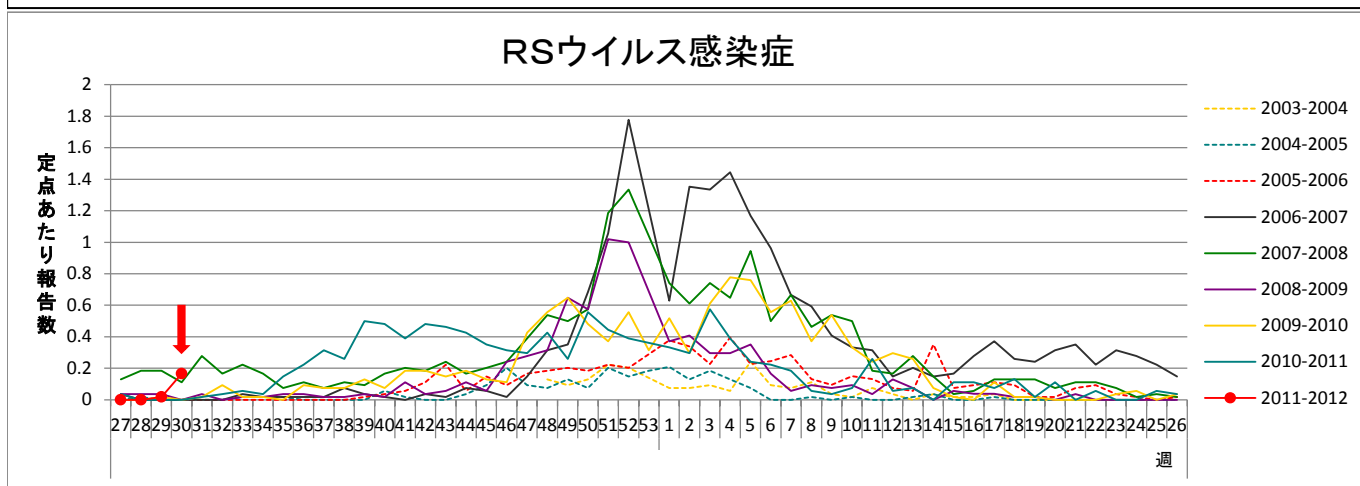
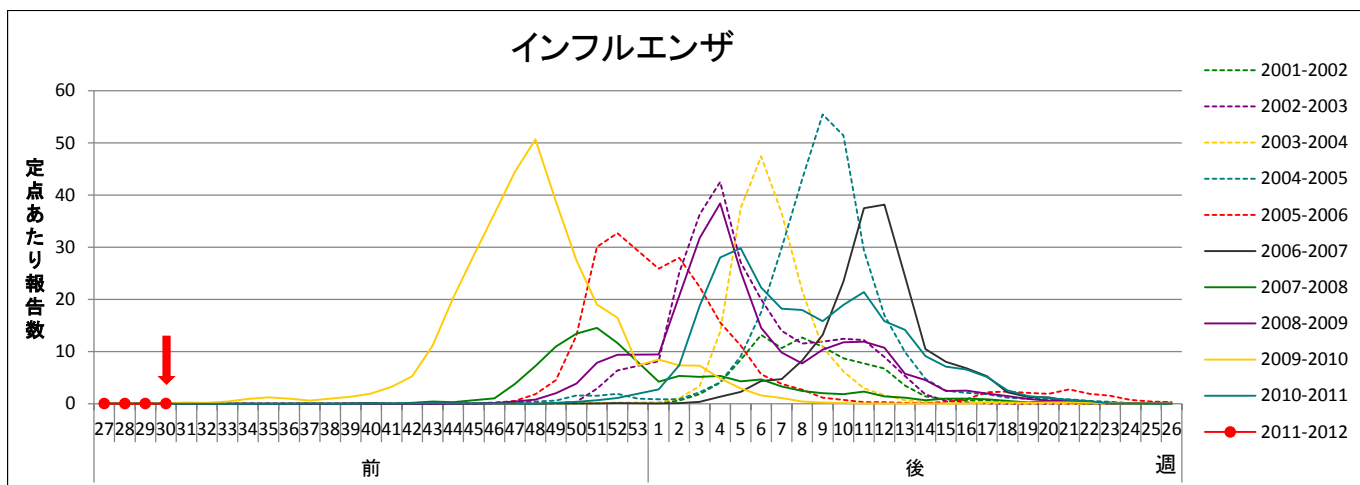
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

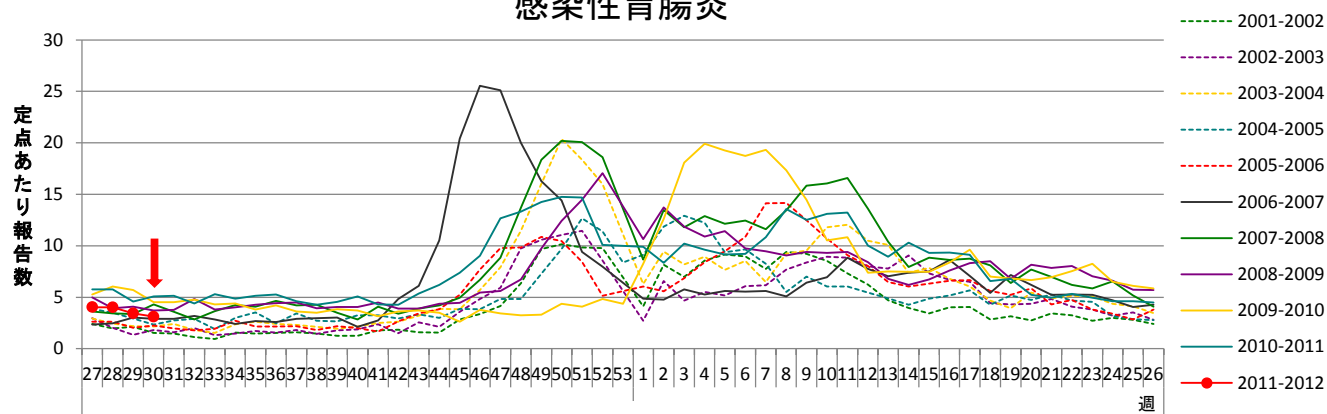
全数把握 感染症患者発生状況

2011 年 30 週

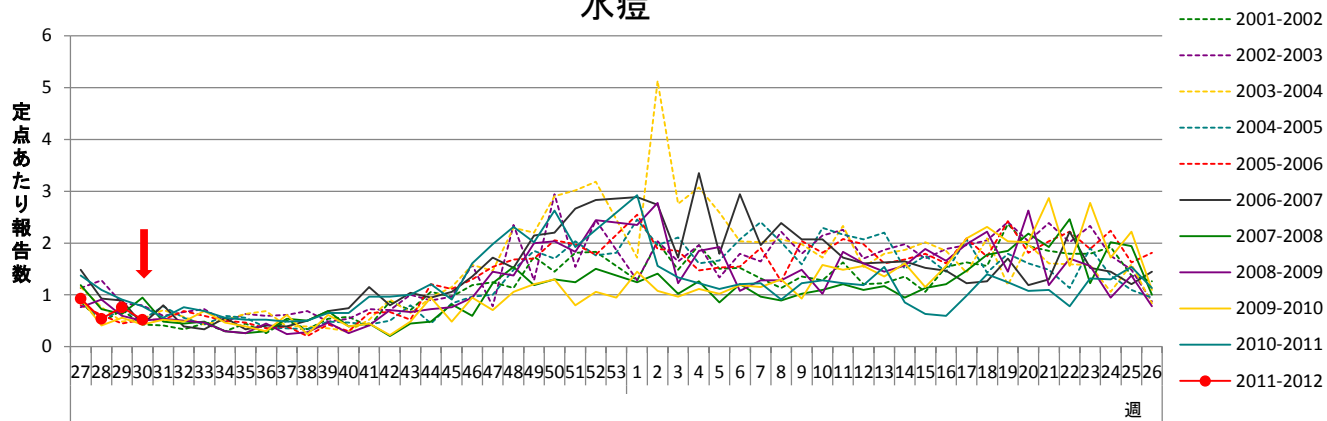
分類	疾病名	2011			2010	2011	2010	2011	2010	2011	2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	270	352	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	2	32
	腸チフス	-	-	-		-	-	-		-	66
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本脳炎 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	-	-		-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	つつが虫病	-	2	1		-	-	7		-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本紅斑熱	-	1	-		-	-	-		-	-
	鼻疽	-	-	-		-	-	-		-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	1
	マラリア	-	-	-		-	-	-		-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-		-	-	-		-	-
	レジオネラ症	-	9	19		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	6	13	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 梅毒 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	3	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 髄膜炎菌性髄膜炎 破傷風 風しん	-	-
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	1	2		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	4	22		-	1	5		-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-		-	7	9		-	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-		-	-	3		-	2
	麻しん	-	4	3		-	-	-		-	-



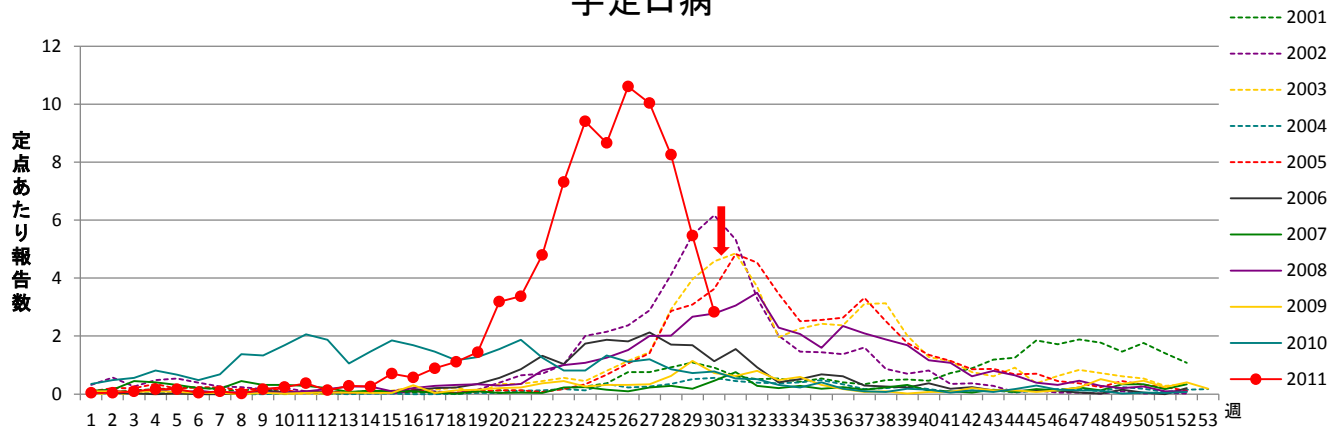
感染性胃腸炎



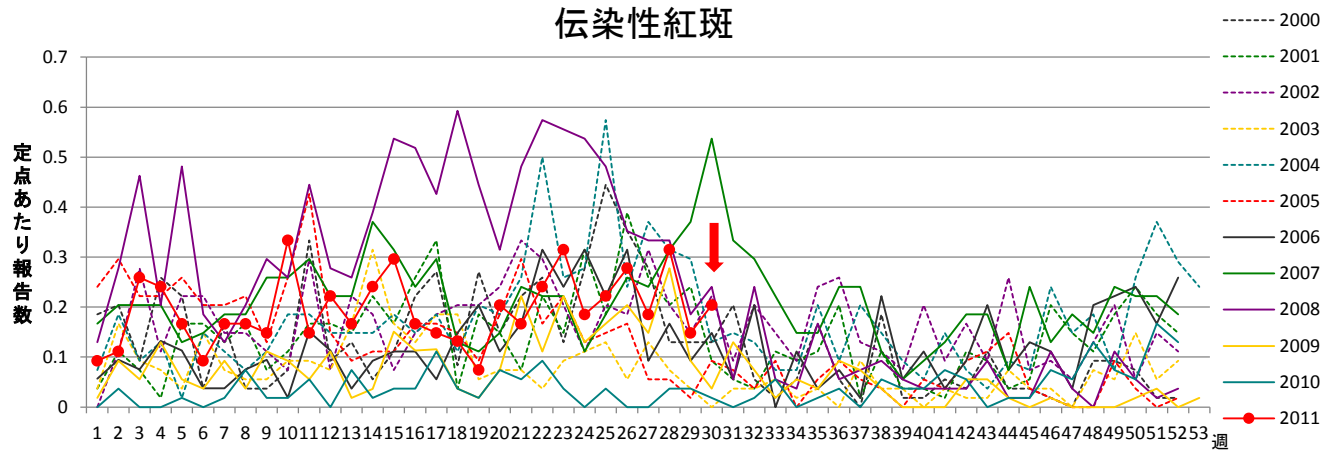
水痘



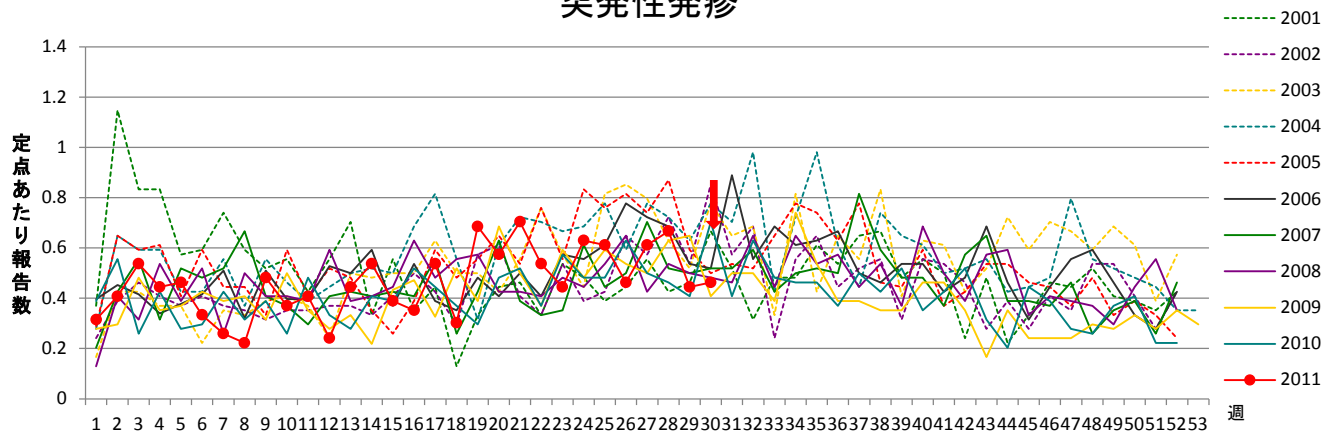
手足口病



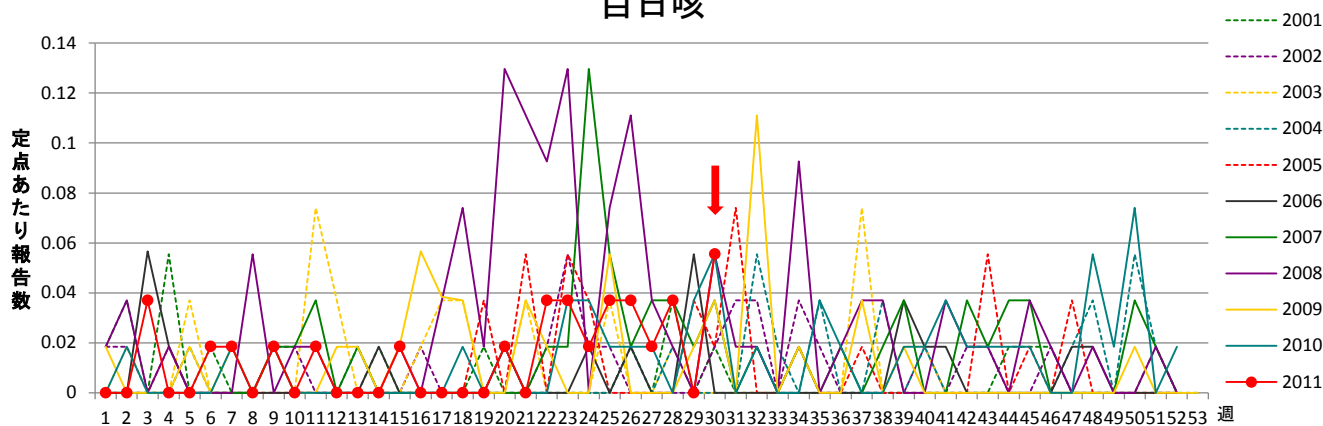
伝染性紅斑



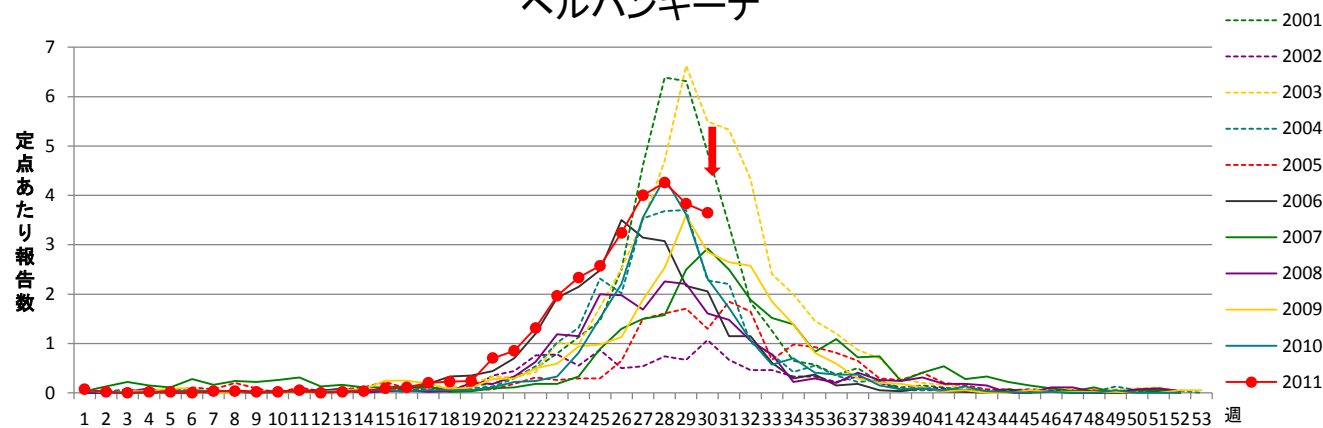
突発性発疹



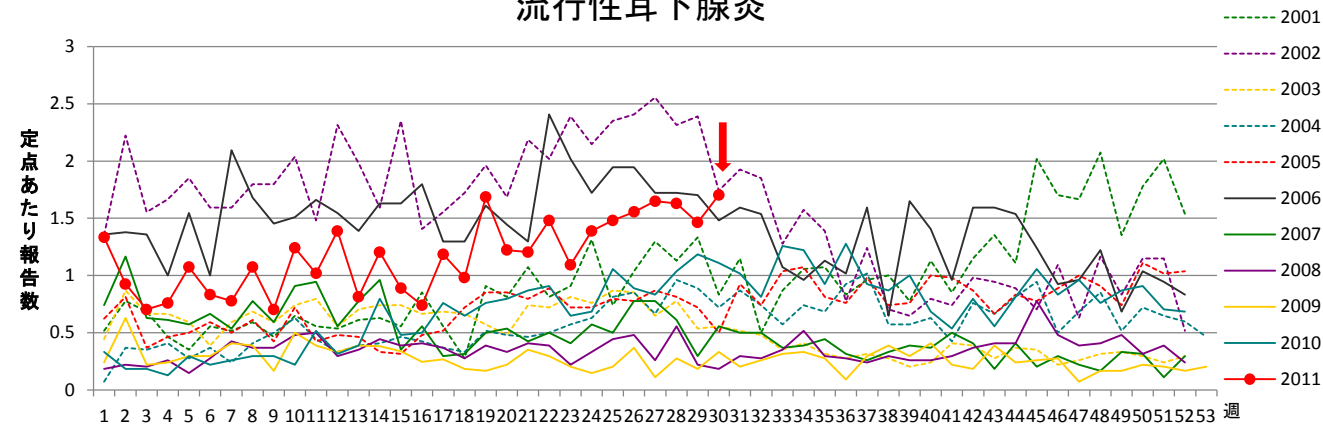
百日咳



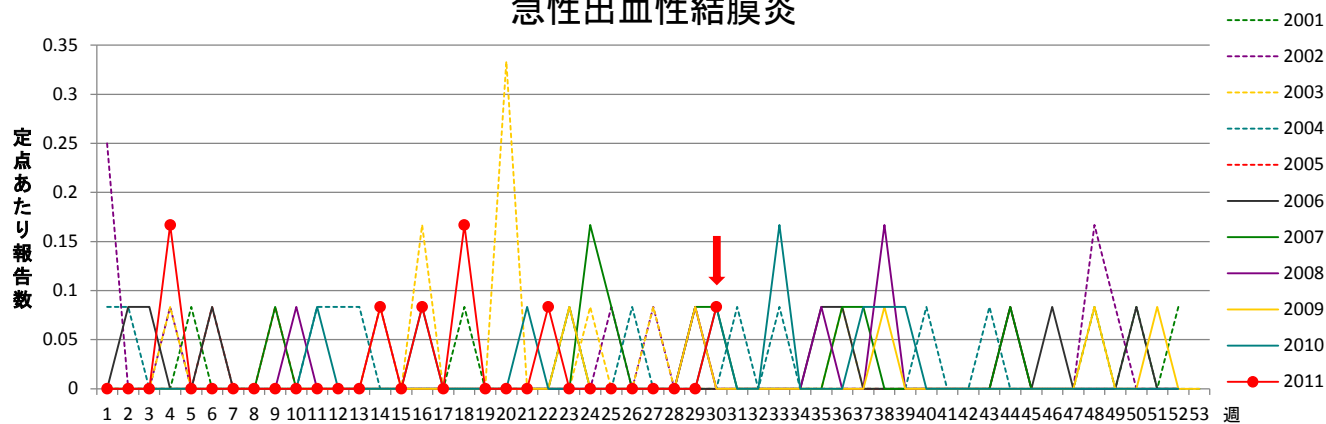
ヘルパンギーナ



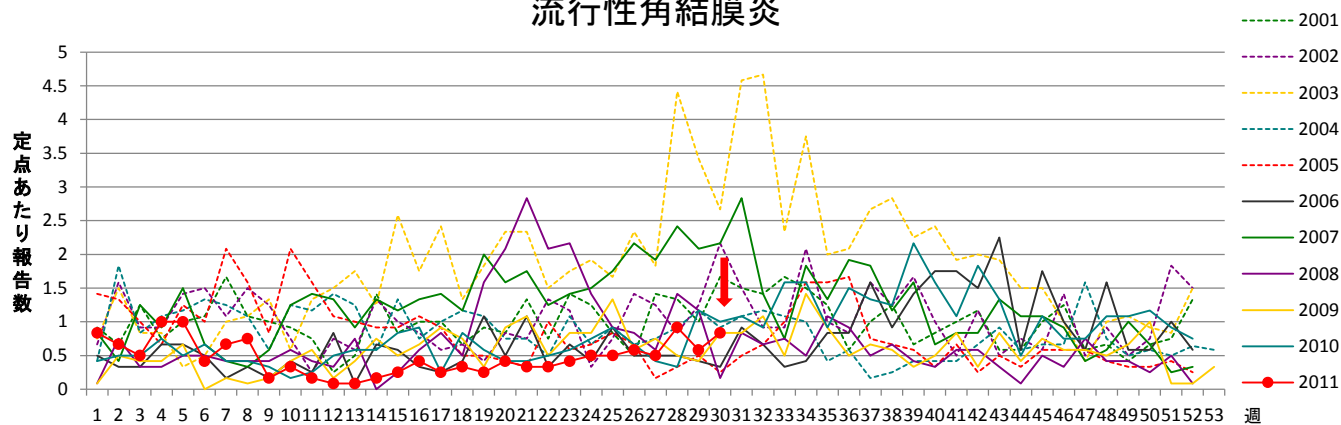
流行性耳下腺炎



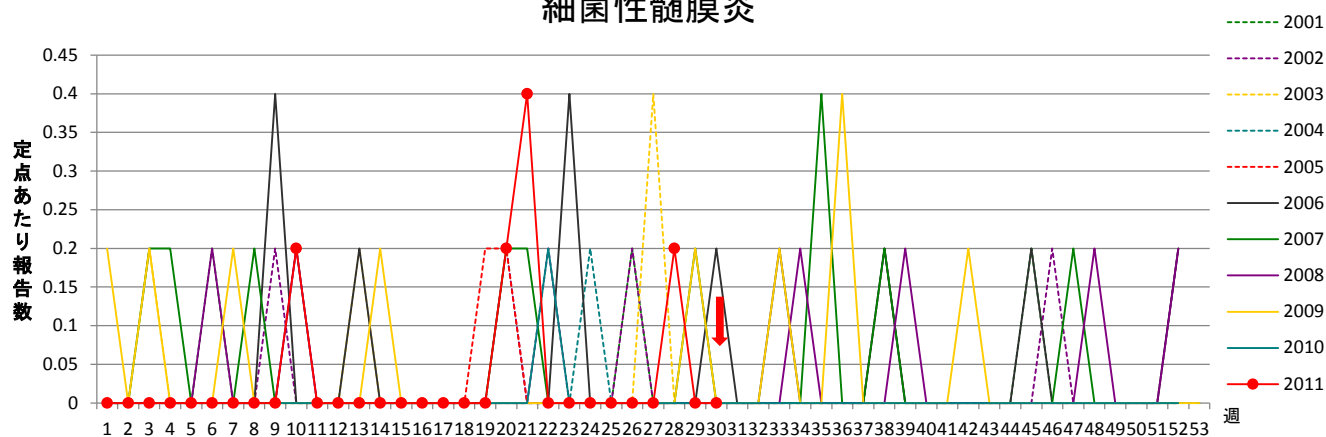
急性出血性結膜炎



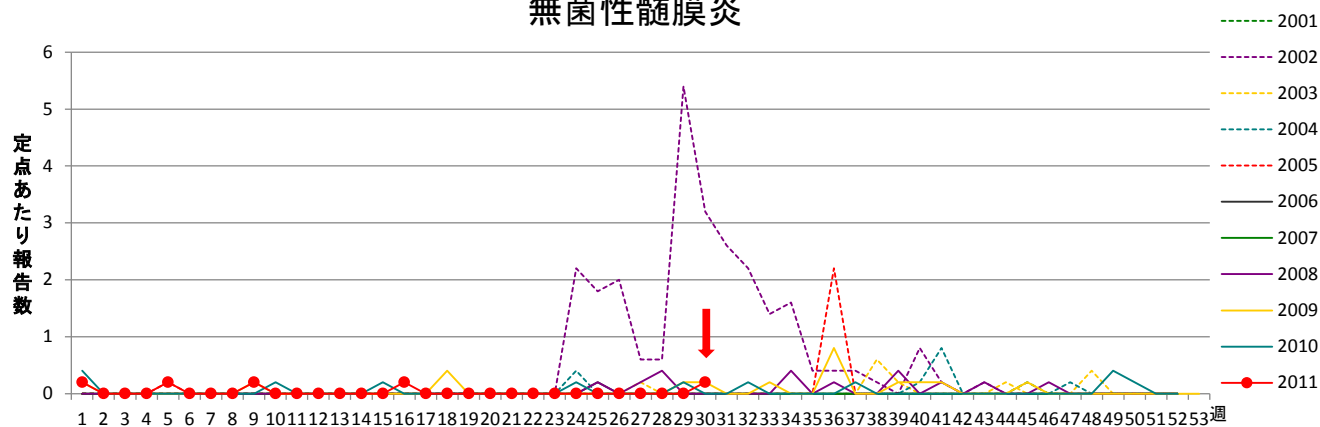
流行性角結膜炎



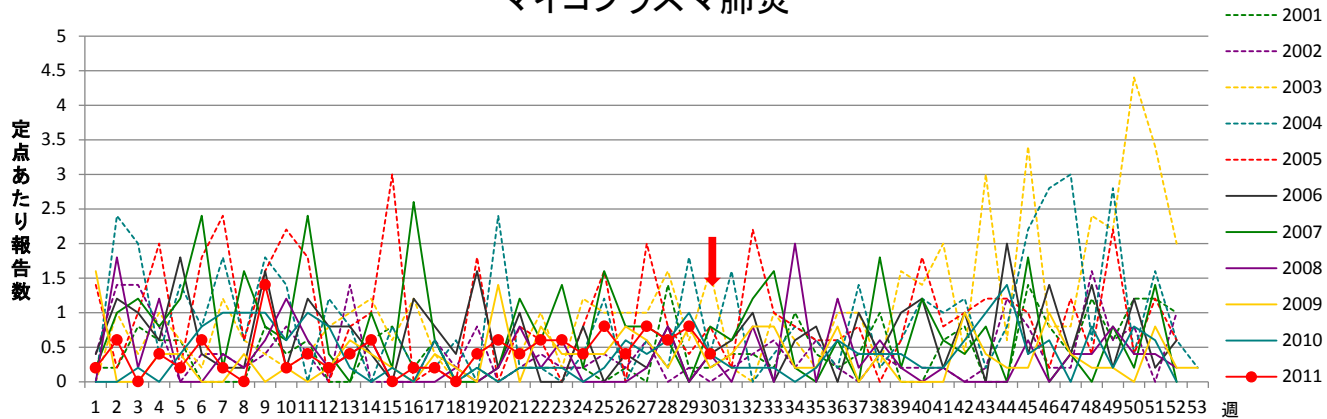
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

